第２学年　算数科学習指導案

１、単元・教材名　　たし算と　ひき算の　ひっ算（２）

２，単元目標

（２位数）＋（２位数)、(百何十何）－（２位数）の筆算の仕方について理解し、計算することができる。

【関心・意欲・態度】

・筆算のよさがわかり、すすんで活用しようとする。

【数学的な考え方】

・既習の２位数の計算を基にして、百の位に繰り上がるたし算とそのひき算の計算の仕方を考えることができる。

【表現・処理】

・２位数までのたし算とその逆のひき算を繰り上がりや繰り下がりに気をつけて、正しく筆算で計算することができる。

【知識・理解】

・繰り上がりや繰り下がりの処理を通して、十進位取り記数法についての理解を深めることができる。

３、指導計画（全９時間）

次	時	学習内容	準備物
第一次（たし算）	1	十の位が繰り上がる筆算	・ワークシート ・提示用計算棒 ・パソコン ・プロジェクター ・スクリーン
	2	十と一の位が繰り上がる筆算	
	3	３口のたし算	
	4	たし算の筆算の練習	
第二次（ひき算）	1	百の位が繰り下がる筆算	
	2	十と百の位が繰り下がる筆算 （百何十何）―（２位数）	
	3	十と百の位が繰り下がる筆算 （百何）―（２位数）【本時】	
	4	十と百の位が繰り下がる筆算 （百）―（２位数）	
第三次	1	加減の演算決定、作問	

４，　ＩＣＴ活用のポイント

授業場所	２Ａ教室
授業形態	一斉学習　グループ学習　個別学習　補習
ＩＣＴを活用する場面	導入　展開　まとめ　その他
ＩＣＴを主に活用する者	教員　学習者　その他
ＩＣＴを活用する目的	課題の提示　動機付け　教員の説明資料 繰り返しによる定着　モデルの提示　体験の想起 比較　振り返り　その他（　　）
活用するＩＣＴ	パソコン　プロジェクター　スクリーン

５，　セールスポイント

・計算棒の束（絵）を並べる際に、スムーズな資料提示しやすい。

・処理の仕組みを声に出して説明する際に、計算の流れを繰り返し提示しやすい。

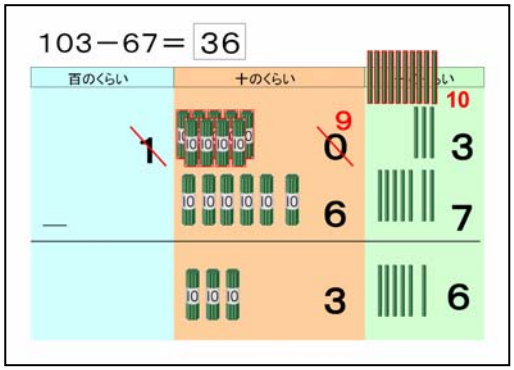
６、教材

自作・既存

７、本時の目標

・（百何）―（２位数）で繰り下がりが２桁に及ぶ筆算ができる。

８，本時の展開

学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点
１．学習課題を知る。	・課題を提示し学習内容を理解させる。
１０３－６７を筆算で計算しよう。	
・ばらの数、１０の束、１００の束を黒板に並べる。	・前時にまとめた掲示物を見せて比べさせる。 ・十の位が空位であることに気づかせる。
２．１０３－６７の計算方法を考えて、ワークシートに書き、発表する。 ・筆算の式に書いて考える。	・各自で自由に問題解決させる。 ・支援を要する児童には、繰り下がりに気づくように、１００の束１個が１０の束１０個になることがわかる絵をヒントカードとして提示し、繰り下がりに気づかせたい。 ・自分の考えと友達の考えを比べさせる。
３．２回繰り下がりがある筆算の仕方をまとめ、プリントに書く。  	〈ＩＣＴの活用〉 筆算と計算棒の操作過程を対応していきながら、児童に繰り返し声に出させ説明し、まとめる。 ・課題をスクリーンに投影しながら、繰り返し声に出させることに留意する。 ・苦手意識が強い児童には、自信につながるよう、しっかり前を見て声に出すように助言する。
４．練習問題を解く。 ・４問	・練習問題ができた児童から、定着を図るために、プリントの問題をさせる。 ・つまずいている児童には、個別指導をする。
５．次時の課題を知る。	・次時への問題意識を持たせる。